２．旧日本銀行福島支店

所在地　福島市本町６－２４

１．日本銀行福島出張所開設の経過

・明治３２年（１８９９）7月１５日

福島町本町６番地（現在地）に日本銀行福島出張所開設　全国８番目

・開設事由　一、福島は東北二大鉄道の集会点として交通運搬の要衝にあったこと。

二、福島県の金融の繁忙は東北六県中最高で、その金融の中心は福島町近郊にあったこと。

三、生糸は当時の我国輸出品のうちで最も重要なものであり、福島は我国における有数の生糸産出地域であったこと。

四、生糸取引は多額の信用を要し、福島における生糸取引高は東北全体の大部分を占めていたこと。

（『福島県金融経済の歩み』より）

・明治４４年（１９１１）６月　京都・広島・函館・金沢各出張所と同時に支店に昇格

２．日本銀行福島支店建設

・明治４４年8月　蔵造り二階建を撤去、本館と金庫館工事着手

・大正元年（１９１２）１１月　本館完成。営業開始。旧建物はすべて取崩の上付属家工事に着手

・大正２年6月　全館完成。建築費　約１４万円

旧日本銀行福島支店については、明治洋風建築物「日本銀行福島支店旧行屋（解体）調査報告書」が刊行されているので、報告書により説明します。（注１）

●設計について

「設計については、「設計、正員工学博士辰野金吾君、正員工学士長野宇平治君、正員工学士奥村精一郎君」（「建築雑誌」（日本建築学会機関誌）第３３３号）と三名連記されているから、このことに関しては疑問の余地はない」

「奥村精一郎の業歴については判明しないが、長野宇平治は明治２６年東京帝国大学卒業後（辰野金吾の弟子）、同３０年には日本銀行技師となり、大正元年台湾総督府に転ずるまで、同銀行京都支店をはじめ多数の支店建築の設計を手がけている。

辰野金吾については記すまでもないことであるが、明治２９年落成の日本銀行本店を明治２３年設計して以来、日本銀行との関係は深く、同３５年東京帝国大学教授を退官した後も同銀行の顧問として、その支店建築の設計すべてに目を通していたはずである。また他方では、葛西万治と共同で設立した東京辰野葛西事務所は、ほぼ時を同じくして数多くの会社・銀行の建築作品を送り出しており、東北地方においてもこの明治４４年前後には、盛岡銀行や福島県農工銀行など同事務所の作品も着工されて

は必ずしも辰野金吾ではなかったとみるのが妥当であろう。」

●規模と構造

本館　れんが造、二階建て一部地階付、屋根鉄骨造、寄棟造、天然スレート葺

建築面積　140坪ビ（４６２．２㎡

延面積　　３００坪（９９０．７㎡

その他に、金庫館、付属家、倉庫、物置、守衛室、門塀

●建築費　　約１４万円（「福島支店の歴史」によると１３万３，５００円、本館のみで１１万円）

３．日本銀行福島支店の経過（注１・２）

・昭和５２年（１９７７）秋　日本銀行部内において福島支店改築の計画が作成

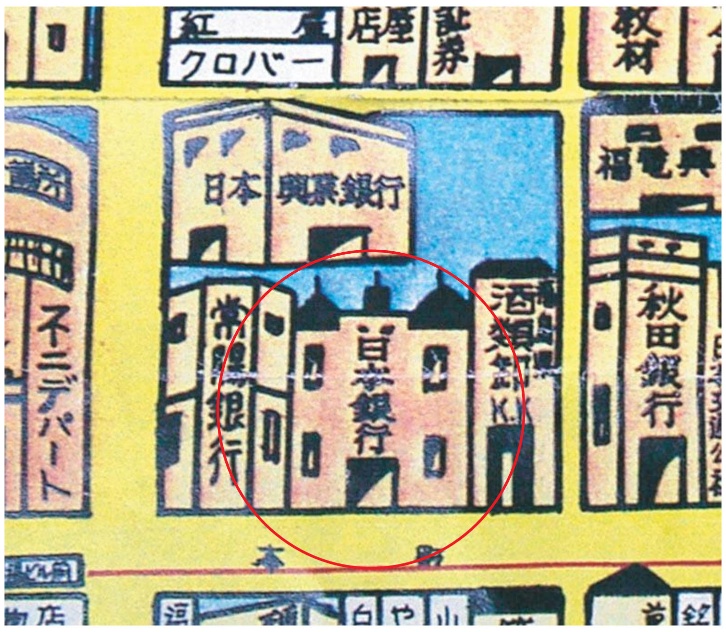
・昭和５３年（１９７９）１２月　仮店舗に移転（旧店舗取壊し開始）

・昭和５５年（１９８０）３月　現店舗竣工（4月より営業開始）

【注】

１．「日本銀行福島支店旧行屋（解体）調査報告書」福島市教育委員会　１９８０

２．「目で見る福島支店の９０年」日本銀行福島支店　１９８９

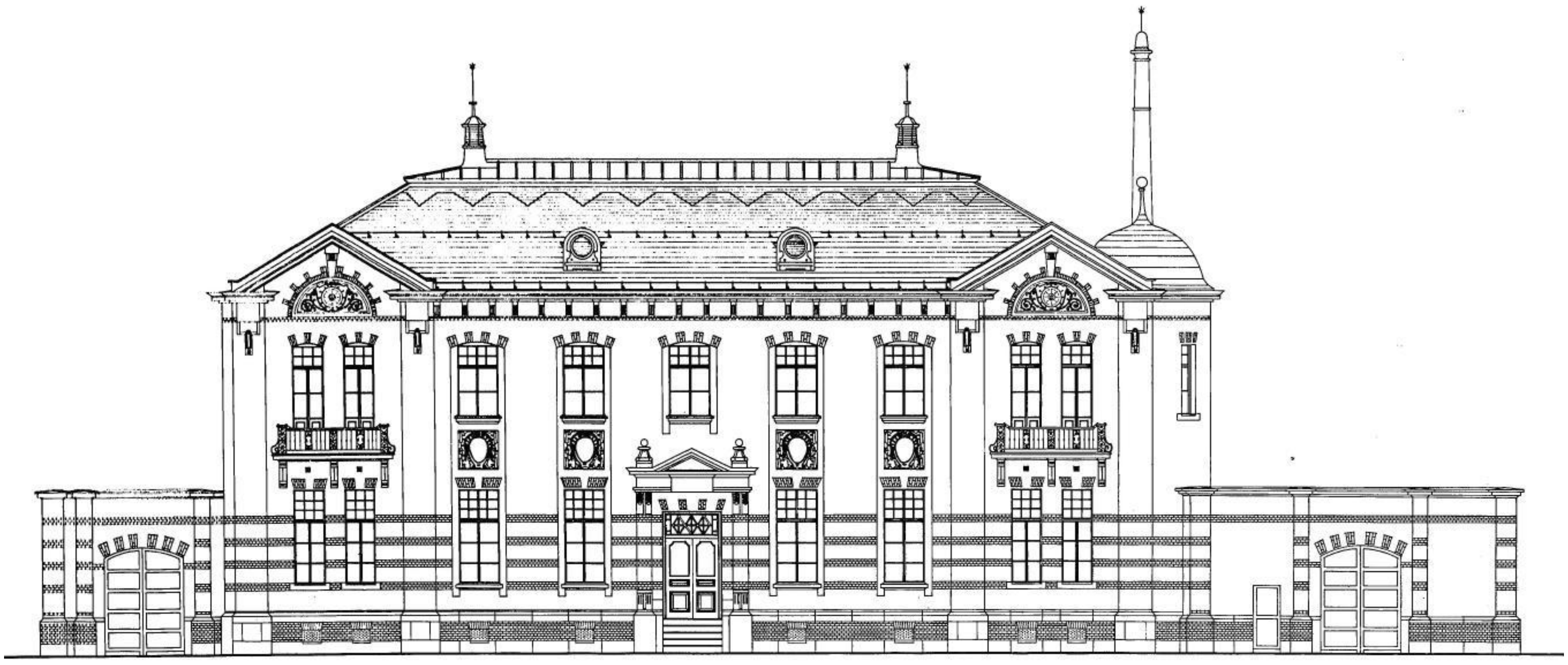


昭和30年地図の位置

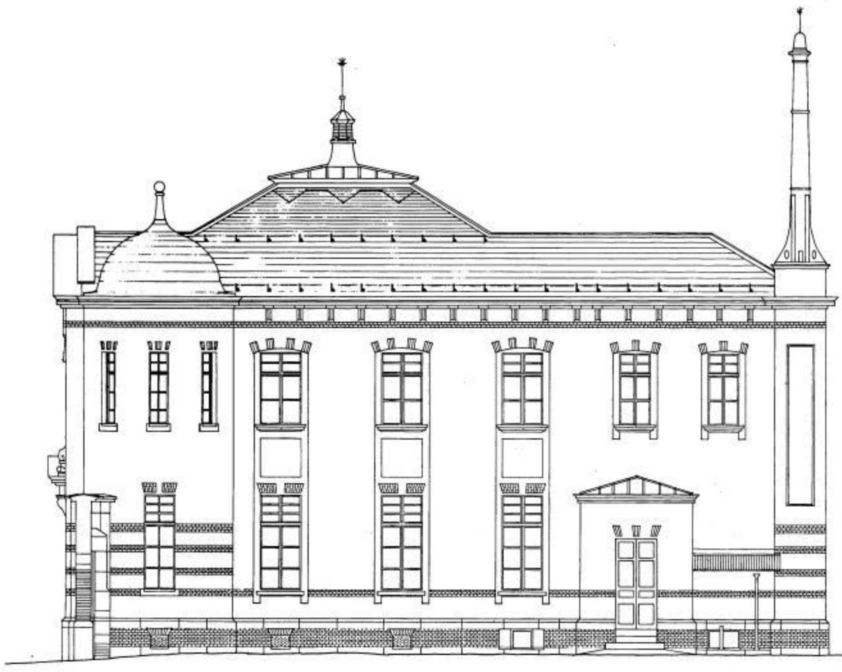
旧日本銀行福島支店　＊

旧日本銀行福島支店
（「福島案内」
昭和6年版より）＊

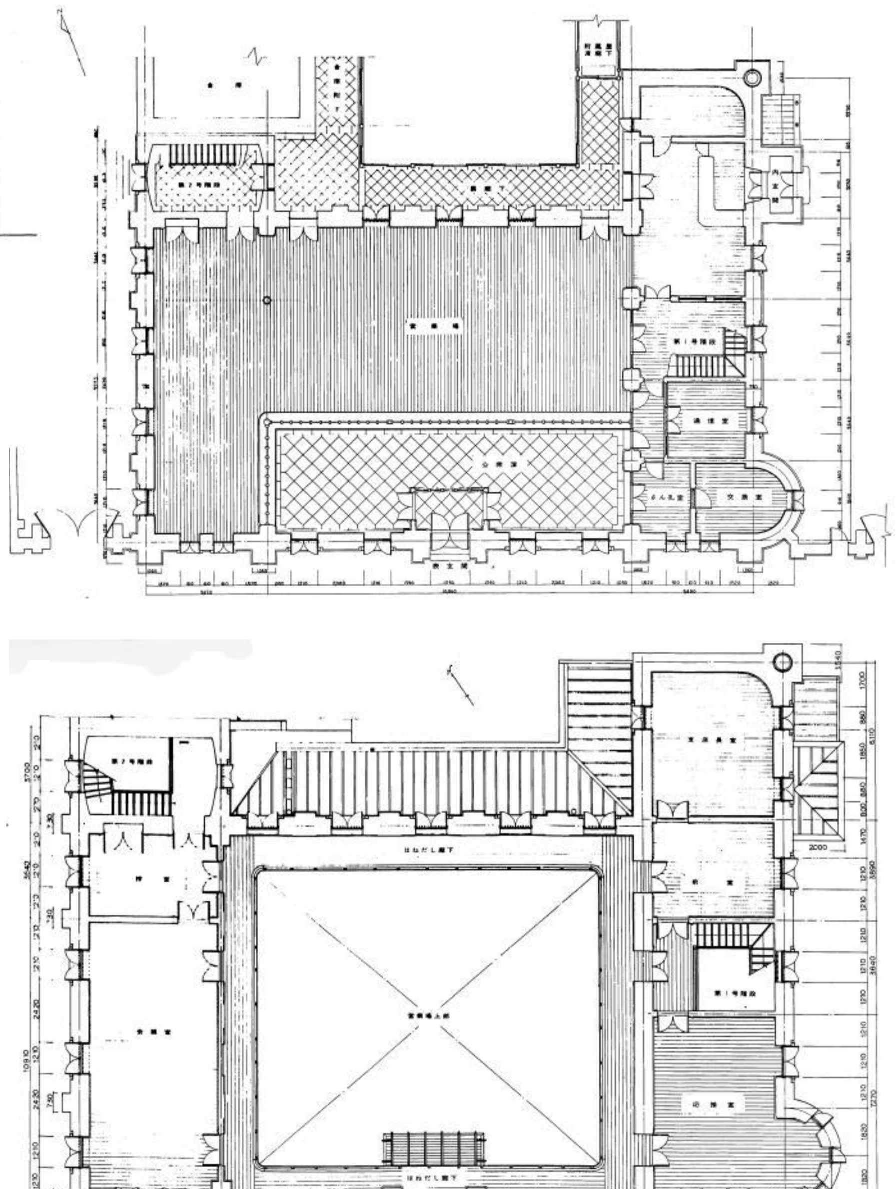
旧日本銀行福島支店　＊



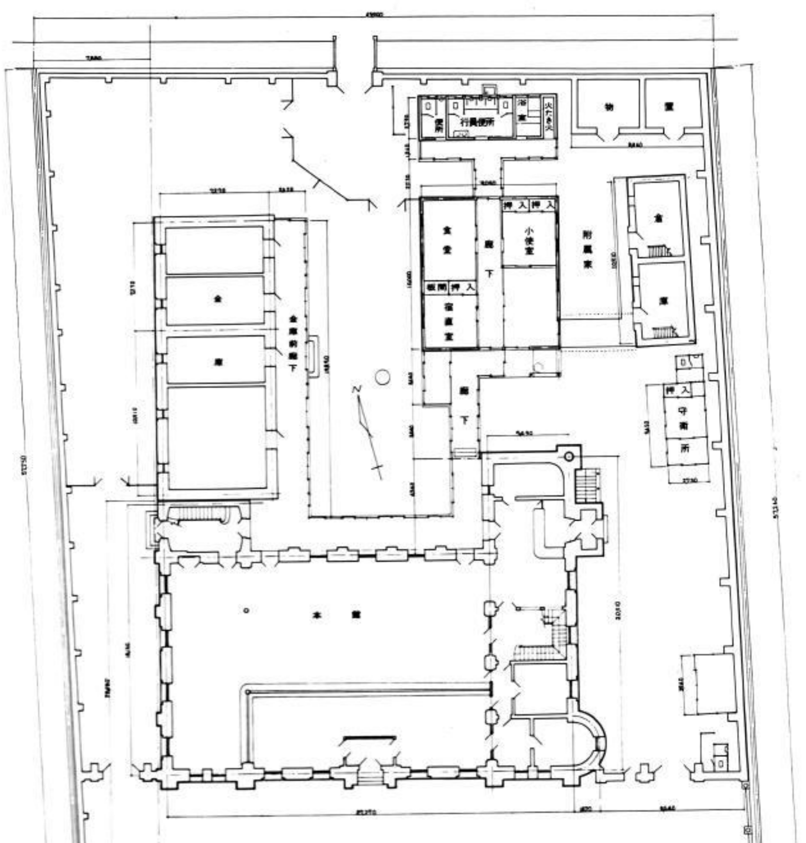
復原南立面



復原東立面



復原一階（上）・二階（下）平面



復原配置

（「日本銀行福島支店（解体）調査報告書」より）